

令和2年度 児童・生徒福祉作文コンクール 入賞作品集



高栄小学校 R2. 12. 8



おんねいゆ学園 R2. 12. 9



北光小学校 R2. 12. 9

社会福祉法人 北見市社会福祉協議会

※当初、表彰式を予定していました「ふれあい広場」が新型コロナウイルス感染拡大のため中止となつたことから、12月3日～9日の全国障がい者週間に合わせて学校へ訪問し、表彰させていただきました。

目 次

はじめに

総評・審査員名簿

【小学校低学年の部】

目の不自由な人の氣もち

うれしいことば

うれしいことば

【小学校高学年の部】

ノーマライゼーションを知つて

福祉について学んだこと

この学習を通して

北光タイムで学んだこと

福祉について

福祉について

高栄小学校二年

鈴木 信一

二頁

おんねゆ学園二年

佐藤 芽

三頁

おんねゆ学園二年

藤田 愛奈

四頁

北光小学校六年

稲垣 李香

四頁

北光小学校六年

小池 咲優

五頁

北光小学校六年

近藤 央太

六頁

北光小学校六年

星加 紗桜里

七頁

北光小学校六年

浅野 菜々子

八頁

北光小学校六年

山本 こなつ

九頁

十頁

はじめに

学校現場での『総合的な学習の時間』が導入され、20年が経過しており各学校においてボランティア活動などの社会福祉体験や高齢者・障がい者との交流が増えていることは大変喜ばしく思います。

国が目指す「地域共生社会」の実現に向け、誰もが住み慣れた地域の中で「ふつうに・くらせる・しあわせ」を築く地域福祉の推進が重要です。

そのためには、将来の地域の担い手となる子どもたちが、幼少期から福祉に触れ、優しさや思いやりの心を育むことが必要です。

こうしたことから北見市社会福祉協議会は、子どもたちに福祉への理解と関心を深めてもらうとともに、家族や地域の方々にも福祉意識を高めてもらうため、『児童・生徒福祉作文コンクール』を実施し、福祉関係団体で開催する「北見市ふれあい広場」で表彰式を行っておりますが、今年度は新型コロナウィルス感染拡大防止のため、ふれあい広場が中止となりましたことから障がい者週間に合わせて各学校に訪問し、表彰状を授与させて頂いております。

また、平成28年度に策定しました『第3期地域福祉実践計画』を基に、「地域づくりを主体的に担う人づくり」として、福祉教育の取り組みを推進し、担い手育成を目指すことを位置付け実施しております。

福祉作文コンクールの実施にあたりまして、市内の小中学校・高等学校の先生方並びに児童生徒及び保護者の方々に格別なご配慮とご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

本作品集を是非ご一読いただき、貴校の今後の福祉教育の取り組みに繋がることをご期待申し上げます。

結びに、本作品集の作成にあたり、多大なるご尽力をいただきました審査員及び関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、今後の地域共生社会実現に向け、福祉教育の取り組みが一層推進されることをご期待申し上げ、お礼のことばとさせていただきます。

令和2年12月吉日

社会福祉法人 北見市社会福祉協議会

会長 渡部 真一

総評

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もありましたが、小学校から91点の応募がありました。

今回の作文は、授業での福祉に関する講話や車いす等による体験、また身近な人の対話などを通して、強く心に残ったことや将来の生き方などについて、自分の言葉で表現されている作品が多くありました。

まず、小学校低学年の部で受賞された作文では、友人や先生から掛けられた「うれしい言葉」について、心の温かさを実感した作品などがありました。

その中でも最優秀賞の鈴木さんの作文では、目の不自由な人の気持ちを知るため、直接、障がいの方からお話を聞き、そこで自分たちと「世界が全く違う」ということに気付きました。さらに、自分も「今度はお手伝いをして、障がい者の気持ちをもっと知りたい」と書かれていました。みんなで支え合い、助け合いたいという気持ちがとてもよく伝わってきました。

次に、小学校高学年の部で受賞された作文では、福祉の学習を通して障がいへの理解を深めた作品が多く見られました。

その中でも最優秀賞の稻垣さんの作文では、障がいに関係なく、互いに支え合い、生き生きと明るく豊かに暮らしていける社会を目指したノーマライゼーションの理念に感銘を受け、「障がい者も健常者もハンディがあるからみんな同じ」という考え方から、差別をなくして誰もが働きやすい世界にしていきたいという強い気持ちが伝わってきました。

これからも、北見市はもちろん、すべての街がさらに住みよい街、やさしい人であふれる街になるよう、そして、皆さんの温かい思いが、世の中の全ての人に広がっていくことを願って、講評といたします。

最後に、受賞されました皆さん、おめでとうございました。

審査員代表

北見市教育委員会学校教育部

指導主幹 尾島康人

令和2年度児童・生徒作文コンクール審査員

氏名	所属・役職
武田 雅弘	北見市保健福祉部・部長
尾島 康人	北見市教育委員会学校教育部・指導主幹
仲野 悠子	北見市心身障害者（児）団体連合会・理事
岡田 栄敏	北見市民生委員児童委員協議会・会長
渡部 真一	北見市社会福祉協議会・会長

【小学生低学年の部】最優秀賞



目の不自由な人の気持ち

北見市立高栄小学校二年 鈴木 信一

【小学生低学年の部】佳作



北見市立おんねゆ学園二年 佐藤 茅

うれしいことば

ある日、ぼくは目をかくして、家の中を歩きまわりました。まつからで、ものにぶつかりました。目の不自由な人は、大へんだとと思いました。この話を聞いたおとうさんは、ぼくを庫元あんまにつれて行つてくれました。

ここは、目の不自由なおじいさんとおばあさんがあんまのしごとをしているところです。ぼくは二人に色いろしつもんしました。まず、目の見えないことについてしつもんしたら、「さいしょから目が見えなかつたから、なにももんくがない」と言つっていました。不べんなことについては、「店に行つたらどこにほしいものがあるかわからない」と話していました。ぼくははじめてこのことを知りました。

このように、ぼくは二人の気持ちを聞いて、世界はまつたくちがうときづきました。こんどぼくはかいもののお手つだいをして、二人の気持ちをもつとしりたいと思いました。

【小学生低学年部】佳作

うれしいことば



北見市立おんねゆ学園二年 藤田 愛奈

わたしは、人から言われて、うれしかったことばが二つあるので、しようかいします。

一つ目は、同じクラスのさとうめいさんが、「えんぴつをおとしたときに、わたしがひろってあげたら、「ありがとう。」とおれいを言わされました。とてもうれしかったです。こんどは、わたしがいつてあげたいです。

二つ目は、そこにポケットティッシュをおとしてこまつていたら、はしもと先生に、「さがしておくから。」と言われました。

二つ目は、そこにポケットティッシュをおとしてこまつていたら、はしもと先生に、「さがしておくから。」と言われました。うれしかったです。そのあとなかの先生が見つけてくれました。

す。

これから、わたしも「ありがとうございます。」って言いたいで

る状況とは大きくちがいます。

テルベの障害者雇用率は約六四・七パーセントです。

【小学生高学年部】最優秀賞

ノーマライゼーションを知つて



北見市立北光小学校 六年 稲垣 李香

私は七月、テルベさんの話を聞いて「ノーマライゼーション」という言葉を初めて知りました。

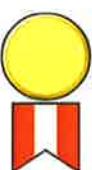
ノーマライゼーションとは「障害のある人もない人も、互いに支え合い地域で生き生きと明るく豊かに暮らしていく社会にしていく」ことです。日本ではノーマライゼーションを取り入れようとしていますが、全国の障害者が働きやすくなつてはいません。日本の法律で決まっている障害者雇用率は二・二パーセントですが、日本の障害者雇用率全国平均は約二・一一パーセントなのです。障害をもつてているという理由だけで職業につけなかつたり差別をされて、家にひきこもってしまう障害者がたくさんいます。しかし、テルベは障害者雇用率も障害者への対応も日本がかかえてい

職場は、車いすの人が使いやすいように広いろうかや多目的トイレなどバリアフリーの設備があり、仕事の内容もわからないところはていねいに教えてくれて、障害者にとってはとても働きやすい環境です。テルベは障害をもっているからできないという考え方をもたず、障害者も健常者も一つは絶対ハンディがあるからみんな同じという差別をしない考えがあります。今の日本は障害者を差別したり認めなかつたりする人がいます。そんな日本を変えていくには、人々が障害者のことやノーマライゼーションを知りテルベさんのような考え方をもつ人を増やすことが大切だと思います。

今回テルベさんの話を聞いて、全国が障害者の働きやすい社会になつていなことを知りとてもおどろきました。これからもっと障害者が働きやすい世界にしていくためにどんなことをするべきか考えてみようと思いました。



【小学生高学年の部】優秀賞



福祉について学んだこと

北見市立北光小学校 六年 小池 咲優

私は、北光タイムの時間に障がい者のことについて学びました。

初めは障がいをもつている人に対して、「かわいそう」とか「こわい」などと自分と全くちがうものだと感じていましたが、「けんじょう者、障がい者には境目はない」というテルベの考えに私は心がうごかされました。私は苦手なことがたくさんあります。

そしてなんどか「どうしてあの子にはできて私にはできないのだろう」となやんだり、くじけそうになつたりしました。そんな時に北光タイムの時間で山田さんに「苦手も障がいの一つだと思います。」という言葉を聞いて障がいは特別なことではなくごくふつうにみんながもつているものだと感じました。

私は今まで障がい者に対して「かわいそう」とか特別にしてもらつたほうがいいという考え方をしていましたが、テルベの人の話を聞いて「障がい者」ではな

く一人の人間として接してあげることが大切だと知りました。

最近では、足が不自由なのにバスケットボールをしたり、ピアノをひいたりと障がいのある人が大活やくしています。さらに障がいのある人でも楽しめる取り組みが増えているのです。

私は、障がいがあるのにこんなにすばらしい演奏や、スポーツができるのだとものすごくおどろきました。

だから、「何ができないのか」ではなく、「何ができるか」を考えてみんなで協力し合って生きていくことが大切なのだと思います。

なのでこれからは、障がいがあるからといって特別にあつかりせずに一人の人間として助け合って困っている時は手を差しのべてあげ、楽しく、そしてかいてき生活していくことを思います。

私は、学校で北見市社会福祉協議会の人や、テルベルたちに、車いすや障害のことについて教えてもらいました。

最初は、車いすの取り扱い方や各部分の名前を学びました。全部で十四種類あり、「ハンドリム」のような難しい名前があって、あまりわかりませんでした。

次は、北見市社会福祉協議会の人たちの協力で、実際に中と外で車いすに乗りました。学校の中では、道がたいらで行きやすかつたですが、外の道はガツタガタでしんどうがすごく、助けがないと後輪が段差にもつていかれそうになりました。特に難しいのは、学校の中のドアの段差です。行こうとしたら、後輪がものすごく重たくなって、かなり力をいれないと行くことができませんでした。

この学習を通して

北見市立北光小学校 六年 近藤 央太

【小学生高学年の部】優秀賞



私は、車いすに乗っている人が、毎日こんな生活をしていて大変だと思いました。外に出たら、歩道が道路の方にななめになっていて、車いすの人は行きづらいようになりました。

今後はテルベの人たちが来てくれて、障害のことにについて教えてくれました。テルベは社員三十四名のうち二十一名の人たちが、知的障害や、身体障害をもつている障がい者です。でもテルベの人たちは、かわいそうなどと思わず、ひいきなどしないで、みんな平等な立場で活動しているというのです。

私は、下半身に障害のある「山田さん」から、どうして車いすになつたのか聞くことができました。山田さんは、二十五才の時に交通事故にあって、せきずいをそんじようし、下半身が不自由になつて、車いす生活になつたというのです。最初の方は、周りの人にめいわくをかけてしまい、いつそのこと死んでしまおうかと思つたこともあつたそうです。でも山田さんは、障がい者スポーツに出会つて、心が大きく変わりました。山田さんは、「足が不自由だから車いすに乗るだけで、何もかわらない」そう思つたそうです。私はこの言葉に共感しました。だつてふつうの人が、目が悪いから目がねをかける、のことと全く同じだと思つたからです。そして山田さんは、もう五十五才なので、

三十年間車いす生活を続けています。私は本当にすごいと思いました。

私はこの学習を通して、車いすの使い方や、障がい者のことについてくわしく知ることができました。そしてこれからは、学んだことをいかして、障がい者のことを差別せずに、平等な立場で生活していこうと思います。

【小学生高学年の部】優秀賞



北光タイムで学んだこと

北見市立北光小学校 六年 星加 紗桜里

先日、北光タイムの学習で、いろいろな車いすがあること、障がいがあつても働ける会社があることを、テルベという会社で働いてる人が学校に来て、いろいろ話してくれました。

まず、テルベがどんな会社なのか説明がありました。障がいのある人、高齢者が働いていて、だれかが苦手なことを、別のだれかが得意なことで補つたり、助け

合つたりして、協力し合いながら働いているのだそうです。

この説明を聞いていて、社会の教科書で見た、『少子化・高齢化』のこと思い出しました。

「だれかの苦手を、他の人の得意で補うこと」が、社会全体のあたりまえになれば、少子化、高齢化でどんどん人口が減っている世の中を良くするヒントが、そこにかくれているような気がしました。

そのあと、車いすに乗った障がいがある人が、体験を話してくれました。

足の感覚がないので、やけどや骨折をしていても気が付つかなかつたことがあつたそうです。それと、エレベーターに乗つていたら、じやま者あつかいされたこと也有つたそうです。その話を聞いていて、わたしが同じエレベーターに乗つていたわけではないけど、なぜだか申し訳ないような、複雑な気持ちになりました。

そして、いろいろな車いすの紹介がありました。バケットボールができる車いす、タイヤが三つある競技用の車いすなどがありました。いろいろな車いすがあることはテレビなどで見て、知つてはいたけれど、生で見るのは初めてでした。本物を見ると、やっぱり、すごいなあ。と思つて少しひっくりしました。

今回の北光タイムで学習したことを家族に話すと、「最近、こんな動画を見たんだけど・・・」と、母が『ヘルプマーク』の動画を見せてくれました。母はぐうぜん、この動画を見るまで『ヘルプマーク』がどんな使い方をする物なのか、よく知らなかつたそうです。わたしも、北光タイムで習うまで『ヘルプマーク』が、どんな物なのか知りませんでした。このように、だれかが知らなかつたことを見たり、知つたりすることで、障がいがある人もない人も、生活しやすい世の中になるのではないかと思いました。



ヘルプマーク

【小学生高学年の部】佳作



福祉について

北見市立北光小学校 六年 浅野 菜々子

見のテルベでは、障がいのある人は、十七人とその他の人たちが協力して働いています。テルベでは、何をしているのかと言うことをテルベの人があえてくれました。まず障がいの種類についてです。

私は、北光タイムの時間に学習したことが大きくわけて二つあります。

一つ目は、私が車いす体験をした時のことです。初めて車いすに乗った時は学校の中で行い、二人で一つの車いすを交代で使いました。

初めて乗つておしてもらった時は、ろうから始まつたのですが、とくに何もなくすばやく移動できました。ですが、体育館の入口の坂らしい所は一人で行けなく、段差があつたのでとても難しいと感じました。

ですから、車いすに乗っている人は毎日大変だなと思いました。

二つ目は、本題の福祉について学んだことです。

この前に体育館でテルベと言う会社の人たちが福祉について教えてくれました。

テルベでは、障がいのある人でも働く所です。北

障がいにも色々な種類があります。下半身が全く動かなかつたり、知能が低下してしたり、耳が全く聞こえなかつたりなどがあります。

このような人たちがたりない所をみんなで助け合つて仕事をしているとてもステキな所なのです。

そして、下半身が全く動かない人は印刷をしたり、知能が低下している人はしげたけをさいばいしたりなどのことをして、たくさん障がいを持つた人が働けます。

テルベではこのようなことをしています。

障がいを持つた人は必ずしも何もできないとは限りません。私たち障がいのない人と同じで障がいを持つている人と私たちは何も変わらないのです。

ですからお互いをもつと知っていくべきだと私は思います。

【小学生高学年の部】佳作



福祉について

北見市立北光小学校 六年 山本 こなつ

私は、小学校の授業で車いすや障がい者についてを学びました。

最初に学んだ事は、車いすの各部の名称について学びました。とても難しい名前ばかりで、正直に言つて学びきれませんでした。

その後に、車いす体験を、校内と校外で体験しました。初めての体験で障がい者の気持ちが良くわかりました。

そして、七月二十八日の火曜日にテルベの方々が車いすや障がいについて詳しく教えてくれました。教えていた中で私が強く心に残っている事は、ノーマライゼーションについてです。ノーマライゼーションとは、主に障がいのある方が、障がいのない人と同等に生活し、ともにいきいきと活動できる社会を目指すという理念です。私はその理念に強く共感しました。理由は、たまに障がい者が職に就けないなど話

を聞いた事があるからです。なので、少しでも力になれる事を探していきたいと思います。

その後に、足に障がいを持つ山田さんが様々な種類の車いすを教えていただきました。いつも使う車いすの他に陸上競技用車いすやバスケット用車いすなどを教えていただきました。それぞれ車いすの値段を聞いた時は思わず声が出てしまうほどの高値でびっくりしました。

私は、私が事故に遭い、障がい者になつたら特別扱いはしてほしくないと思いました。健常者と障がい者の境目なんてつくらないでほしいです。なのでテルベの方々の熱い障がい者への気持ちが伝わって来てすてきだと思いました。

これらの経験をふまえて、障がい者を見かけ、こまつていたら見て見ぬふりをせず、助けてあげたいと思います。



令和2年度
児童・生徒福祉作文コンクール
入賞作品集

令和2年12月

編集 社会福祉法人 北見市社会福祉協議会

【社会福祉法人 北見市社会福祉協議会 地域福祉課ボランティア係】
北見市ボランティア市民活動センター
〒090-0065 北見市寿町3丁目4番1号
TEL 0157-61-8181 FAX 0157-61-8183
ホームページ <http://www.kitami-shakyo.or.jp/>
メールアドレス vola-senter@kitami-shakyo.or.jp
